

千葉市感染症発生動向調査情報

2023年 第32週 (8/7-8/13) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	定点	32週	31週	30週	29週	
上段: 患者数 下段: 定点当たりの報告数 「定点当たりの報告数」とは 報告数/報告定点数	小児科	16	18	17	18	*正式名称は インフルエンザ/COVID-19定点
	眼科	3	5	5	5	
	*インフル/COVID	22	28	27	28	
	基幹	1	1	1	1	

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			8/7-8/13	7/31-8/6	7/24-7/30	7/17-7/23	7/31-8/6
			32週	31週	30週	29週	31週
小児科	RSウイルス感染症		7	7	17	12	93
	咽頭結膜熱		1	4	4	2	60
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		13	8	15	19	187
	感染性胃腸炎	↓	107	125	120	133	500
	水痘		0	1	4	2	7
	手足口病		4	8	19	15	105
	伝染性紅斑		0	0	1	0	1
	突発性発しん		6	5	10	11	34
	ヘルパンギーナ	★↓	42	52	102	111	310
	流行性耳下腺炎		1	0	2	1	7
*インフル/COVID	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓	27	44	42	78	235
	新型コロナウイルス感染症	↓↓	195	343	334	251	3655
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	1	0	1	22
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

「流行中」 流行発生警報開始基準値以上

「やや流行中」 流行発生注意報基準値以上、又は流行発生警報開始基準値を下回った後に流行発生警報終息基準値以上

2 全数報告対象疾患: 2 例

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認
-	-	-	-				

・第32週は、結核1例(66)、腸管出血性大腸菌感染症1例(15)の発生届があった。

※ ()内は2023年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第32週のコメント

<感染性胃腸炎>

前週よりやや減少し6.69となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は1歳で最多。区別では、若葉区(14.00)が流行発生警報終息基準値(12.00)を上回り最多で、同区の1歳及び2歳の報告が最も多かった。

<ヘルパンギーナ>

前週よりやや減少し2.63となったが、流行発生警報終息基準値(2.00)を上回ったまま。過去10年の同時期と比べるとやや少なめ。年齢階級別の報告数は1歳で最多。区別では、稲毛区(6.00)が流行発生警報開始基準値(6.00)と並び最多で、2歳の報告が多かった。他に緑区(2.50)が流行発生警報終息基準値を上回った。

<インフルエンザ>

前週よりやや減少し1.23となったが、過去10年の同時期と比べると最多のままで、流行開始の目安とされる1.00を上回ったまま。年齢階級別の報告数は2歳で最多。区別では、緑区(2.50)が最多で、同区の2歳の報告が最も多かった。

<新型コロナウイルス感染症>

前週より減少し8.86となった。区別では、中央区(22.50)からの報告が最も多かった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2023.pdf>

・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2023.pdf